

うたのなかやま
歌中山は清閑寺の北、音羽山の間をいふ。

寺 説 むかし清閑寺の真燕僧都といふ人住ける。ある夕ぐれ門外にたゞずみて行かふ人を見るたる折ふし、髪か
たちめでたき女のたゞひとりゆくを見て、忽ち愛心おこりければ、物いひかくべき便りなくて、清水への道は何れ
ぞと問ければ。女

見るにだにまよふ心のはかなくてまことの道をいかでしるべき

といひ捨て頓て姿を見失ける、女は化人にて侍るにや。其歌読所を歌の中山といふ。